



喜多埜

お月見

今年の十五夜は九月十八日です。ちなみに十三夜は十月十五日になります。

お月見は古くよりの日本の伝統行事であり、古くは、古代日本のお月見は、月を神と崇める信仰としてのお月見であり、宴会の形ではなかったようです。それが平安時代に、天神様こと菅原道真公の菅原家が大陸で流行していた月見の宴を自宅で催すようになり、当時の中国の漢詩ブームを受け、月の宴が度々催され、それを真似して貴族の間でも月の宴を催すようになり、後に民間に広まったようです。道真公も十五夜の漢詩を残されておられ、月を歌と酒で愛でるといった当時の流行の最先端を菅原家では執り行っていたようです。

秋の七草

萩の花 尾花（ススキ） 葛花 瞿麦の花（撫子） 女郎花 また藤袴 朝顔の花（桔梗か）（万葉集・巻八一五三八）と万葉の歌人、山上憶良が歌ったように、古くから日本人に愛された秋の野草七種です。春の七草のように食べられませんが、またそれに伴う行事もありません。何ゆえ、この七種なのかはいまもって不明です。しかし、夏の盛りを過ぎてこれから冬へ向かう過渡期に咲く、慎ましげだが味わいある花に、いにしえの日本人の美意識を感じる花々です。近年は仲秋の明月にススキなどを飾り立てる風が見受けられますが、他の六種も揃えて眺めてみるのも風情があるかもしれません。

お彼岸

彼岸（ひがん）とは雑節の一つで、春分・秋分を中日とし、前後各三日を合わせた七日間のことをいいます。元々は煩惱を脱した悟りの境地のことで、煩惱や迷いに満ちたこの世を「此岸」（しがん）と言うのに対して、向う側の岸「彼岸」といい、此岸から脱つて彼岸にたどり着く事を悟りの境地とする浄土思想から生まれた信仰ですが、お彼岸の祖先崇拜という考えは元来の仏教にはなく、日本独特の信仰ともいわれています。ちなみにこの頃食べる「おはぎ」は春の彼岸の「ぼたもち」と同じもので、それぞれ秋に咲く萩と春に咲く牡丹からついた名前だそうです。

QRコード変更のお知らせ

今年四月からご利用頂いておりました、QRコード（モバイル（携帯）サイト表示の為にバーコード）ですが、この度、tunashiki.comへ直接アクセスして頂いても、自動的にモバイルサイトが表示される様になりました。これまで、モバイルサイトのアドレスは長いアドレスでしたので、QRコードも複雑で読み取りにくいものでしたが、アドレスが短くなった事で、QRコードも読み取りやすくなりました。また、これまで未対応だったAUのez webにも対応出来る様になりました。携帯電話をお持ちの方でバーコード機能のある機種をお持ちの方は一度お試下さいませ。

当神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ポータフォン
ez web 対応



編著 網敷天神社 禰宜（神主）

白江 秀知

